

BXグループ
CSR報告書
2020



「新しい」に、踏みだす。

シャッターやドアから新しい一日が始まるように

BXグループは常に「新しい」価値創造に挑戦しています

培ってきた技術を活かし

あらゆる人々の暮らしにより多くの「快適」を届けるため

私たちBXグループは今日も「新しい」一步を踏みだします

編集方針

本報告書は、持続可能な社会の構築をめざしたBXグループの活動や、今後めざすべき方向性についてステークホルダーの皆様にご理解いただくために発行しています。

2020年度版のポイント

- 文化シャッターは2020年に創業65周年を迎えました。これまでの価値創造の変遷と企業としての成長を振り返り、改めて私たちが継承すべき精神や行動指針についてグループ全従業員で確認し、これから迎える未来に向けて、めざすべき姿をステークホルダーの皆様と共有する内容となっています。
- BXグループの強みである「技術力」と「施工力」をグループの価値創造を支えるコア・コンピタンスとして、それぞれを強化する取り組みを紹介しています。
- BXグループでは、喫緊に解決すべき重要課題を環境問題と防災対策に絞り、「エコと防災」をテーマに事業活動を行っています。2020年度版では、BXグループの環境ソリューションと防災ソリューションを取り上げ、具体的事例を挙げ、紹介しています。
- ESG（環境・社会・ガバナンス）およびSDGs（持続可能な開発目標）と照合したCSR憲章（成長と共に・社会と共に・地球と共に・働く仲間と共に）毎の重点課題に基づき、ハイライトとなる活動を掲載しています。

参考にしたガイドラインおよびガイダンス

- ・価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス
- ・GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード2016」
- ・ISO26000：社会的責任に関する手引き
- ・環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」



情報提供について

マークの項目は、詳細および関連情報をホームページでご覧いただけます。

報告対象期間

2019年度（2019年4月～2020年3月）を報告期間としています。ただし一部2020年度の報告も含んでいます。組織・役職は2020年4月現在のものです。

報告対象範囲

BXグループ全体を対象としています。文化シャッターのみ、あるいは特定の会社限定される場合は本文中にその旨を明記しています。グループ全体を指す場合は「BXグループ」と表記しています。

将来の予測等に関する注意事項

本報告書にはBXグループの将来に対する予測・予想・計画等の記載がありますが、これらは現時点での情報に基づいた仮定および判断です。今後事業環境等の変化により影響を受ける可能性があります。

発行日

2020年8月（次回発行日2021年8月予定）

目次

価値創造の基盤

トップメッセージ	3
私たちが大切にしていること	5
BXグループのあゆみ	7
BXグループの価値創造プロセス	9

価値創造に向けた戦略

BXグループの強み「技術力」「施工力」	11
トップインタビュー	15
財務データ	19
非財務データ（S 社会・G ガバナンス）	21

特集：重点事業テーマ「エコと防災」

環境ソリューション	23
防災ソリューション	25

4憲章報告

マテリアリティ一覧	27
-----------	----

成長と共に	29
-------	----

お客様の満足を追求	
グループの成長・発展	
誠実な企業経営 コーポレート・ガバナンスの推進／リスクマネジメント	

社会と共に	35
-------	----

企業市民としての社会貢献	
人道的社会貢献	
文化活動の支援	

地球と共に	37
-------	----

環境負荷を軽減した企業経営	
マテリアリティ報告・非財務データ（E 環境）	
環境配慮技術・商品開発	
自主的な環境保全活動	

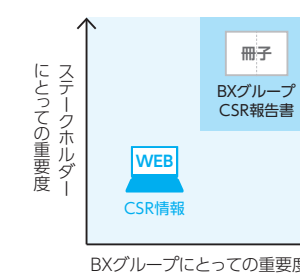
働く仲間と共に	43
---------	----

人権の尊重	
雇用の創出	
満足度の向上	

第三者意見／第三者意見をいただいて	45
-------------------	----

CSR用語集	46
--------	----

CSRに関する情報開示の全体像



BXグループCSR報告書

BXグループの活動について年次活動状況や特筆すべきハイライト情報を中心に報告しています



WEB CSR情報

CSR憲章やCSR推進体制などの基盤の情報や、経年の活動など、より詳細な情報を掲載しています



<http://www.bunka-s.co.jp/csr2018/>



トップメッセージ

「快適環境ソリューション」の探求を通じて 持続可能な社会の実現に挑戦していきます

BXグループは創業65周年を迎えました。

創業当初から脈々と受け継いできた「誠実をもって社会に奉仕する」という企業姿勢は、BXグループの全ての活動の根幹となるものであり、時代の変化に応じ、これを具現化するものづくりに挑戦し続けてきました。

現在、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、これまで全世界が経験したことのない危機に直面しています。あらゆる組織が叡智を結集させこの危機を乗り越えんとする一方で、多くの医療従事者の方々が、最前線で奮闘されています。医療機関、介護施設の従事者の皆様には心より感謝申し上げます。

コロナ禍を受け、文化シャッターでは医療従事者の感染リスクを減らす「ワークスルータイプPCR検査用ブース」の販売を開始しました。全国から多くのお問い合わせをいただいております。病院や保健所等、設置施設も増えています。

多くの企業がそうであるように、私たちも解決すべき課題に真摯に向き合い、新たな発想で事業領域を広げること成長の機会としてきた歴史があります。

今後さらなる成長を遂げるためには、直面する喫緊の課題にスピード感を持って応える短期的な課題解決と、長期的な視点で持続可能な社会をめざす新しい価値提供への挑戦、この二つのバランスを取りながら、共に推進していくことが必要だと考えています。

2020年度は5カ年の中期経営計画の最終年度です。中期経営計画では長期ビジョン「快適環境のソリューショングループ」のさらなる進化をめざし、人々が安心して暮らせる心豊かな生活空間を実現するソリューションを社会に提供することで、グループの成長・発展を遂げる姿を「ポスト2020VISION」と位置づけました。BXグループの強みである「技術力」を駆使して創出された新しい価値を時代に先駆け提供するBX独自の成長モデルが、「BX-CSV」(BXならではの社会と共有する価値の創造)として確立しつつあるのも、大きな成果だと感じています。また私たちのめざす「快適環境」は、持続可能な社会・地球環境の実現が大前提であり、人間と自然の健やかな未来の追求によって達成されるものです。そのことから、企業としての経済的成長はもちろんのこと、ESG(環境・社会・ガバナンス)やSDGs(持続可能な開発目標)の視点においても確実な成果を上げることまた、BXグループの使命だと考えています。

今後も創業の精神を大切に継承し、「快適環境ソリューション」の探求を通じて持続可能な社会の実現に向けてチャレンジを続けていきます。

文化シャッター株式会社
代表取締役社長

潮崎 敏彦



創業者
兄の関本 亘(左)
弟の東海 亨(右)

BXグループは創業65周年を迎えます

～創業の精神を、時代に応じたビジネスという形で実現し、誠実をもって社会に奉仕する～

これからもBXグループは、新しい価値として生み出した製品・サービスによって、
時代に先駆けた新しいライフスタイルを提案していく
「快適環境のソリューショングループ」として進化し続けます。

誠実と奉仕
関本 亘

私たちが大切にしていること

創業の精神

創業者、関本亘が残したこの言葉は、今も脈々と受け継がれるBXグループの原点です。関本は常日頃から“誠実と奉仕”という言葉を持ち出し、「洋の東西を問わず、又古今を通じて、われわれ人間が社会に住みついていく以上、すべて相手の立場を尊重して自己を向上させてこそ、われわれの存在価値があり、これらの究極の目的を達成させるために欠かせない要素を沢山もっている」として、自身のモットーにしています。

「誠実をもって社会に奉仕する」

一つの会社が発展するか否かはその信用度合いにあり、仕事はあらゆる面において誠実であるべきというのが、今も受け継がれる創業の精神です。

この創業の精神に込められた「誠実をもって奉仕することで社会に認められ成長する」という理念に基づき、私たちBXグループは今日に至る成長を遂げてきました。

今後も私たちは“誠実と奉仕”を原点に、変化する社会課題に真摯に向き合い、社会の発展に貢献していきます。

社是

もう一人の創業者、東海亨は裸一貫から「努力」一筋で道を切り拓いてきた人でした。BXグループの社是は二人の創業者の人生観を表しています。

誠実 努力 奉仕
社是 実力

誠実とは心のふれあいである。
真心のふれあいでは信頼は生まれる。

努力とは、創造する行為の持続力である。

奉仕は、自発的な行為・行動で、
お客様や社会のお役に立つこと。

経営理念

私たちは、常にお客様の立場に立って行動します
私たちは、優れた品質で社会の発展に貢献します
私たちは、積極性と和を重んじ日々前進します

2017年、BXグループの行動の指針であるこの経営理念に「私たちは」という言葉が加わりました。

現社長の潮崎は、従業員一人ひとりの「主体性」「自主性」がBXグループのブランドを創り上げ、持続可能な成長を遂げる原動力となることから、行動の指針である経営理念に「私たちは」を加え、より強いアイメッセージとしました。

これには一人ひとりがBXグループのあるべき姿を明確にイメージし、行動の礎となる経営理念を体現することでBXブランドを形成していったほしいという願いが込められています。

コーポレートブランド

BX

Bは文化シャッター、Xは未知数、無限性、掛け合わせる力を意味します。何を掛け合わせるかによって、常識を超えたイノベーションが生まれ、それは無限に広がる可能性を秘めています。そしてこの鮮やかなスカイブルーは、BXグループがめざす『快適環境創造企業』として、地球環境の美しさを象徴する青空の広がりをイメージしたものです。

チャレンジ精神

創造・挑戦・革新

創業以来買ってきたチャレンジ精神を支えるBXグループのいわば「合言葉」です。独自の「技術力」をもって建築文化に寄与する文化シャッターとして、BXグループの強みである「技術力」「施工力」に磨きをかけてきました。

➔参照 P11-14 BXグループの強み「技術力」「施工力」

BXグループのあゆみ

BXグループは創業以来、常にその時代の社会課題と向き合い、価値創造への挑戦を積み重ねてきました。創業者の残した「奉仕」の精神のもと、社会課題に取り組む姿勢がグループを成長させる礎となり、今日のBXグループへと発展させました。今後も絶えず変化する社会課題とより深く関わり、価値創造への取り組みを追求することで、「快適環境ソリューショングループ」として進化し続けます。

1955年～

ユーザー視点で新しい価値を創出

文化シャッターの創業は日本が高度経済成長の坂を上り始めた1955年、“お客様第一主義”とも言うべきユーザー視点から誕生した会社でした。以来、お客様に喜んでいただける製品・サービスの追求とそれを支える技術の研鑽に努め、創業まもなく業界に先駆ける数々の成果を生み出し、今日のBXグループの発展の礎を築きました。

1958年 前処理防錆技術 「パーカーライジング法」

「自動車のボディ塗装の手法をシャッターに導入できないか」と考え、業界で初めて防錆処理を導入し、旋風を巻き起こしました。



1959年 軽量シャッターの電動化を実現

巻取り機構の収納スペースを必要としない電動式軽量シャッター「オートシャッター」を開発。これを基盤に、重量電動部門（EGシャッター）と軽量電動部門（モートシャッター）の2つの道を歩むことになりました。

1968年 業界初の 住宅用窓シャッターを発売

一般木造住宅用に発売された「ブラインド雨戸ミニ」は、窓枠のアルミ化に伴い鉄製シャッターから大きく改良され、住宅用に軽量化された画期的な商品でした。多様化するライフスタイルにふさわしい新しい住宅建材として一大ブームを巻き起こしました。



1970年～

総合建材メーカーへの飛躍

大阪万博（EXPO'70）で幕を開けた1970年代。文化シャッターは第一次オイルショック後の厳しい社会情勢の中、将来を見据えて住宅用建材事業やビル用建材事業に本格参入し、シャッター事業と共に3つの市場で新たな価値を提供する総合建材メーカーとして歩み始めました。

1973年 全国初ユニットバルコニーを発売

従来地場の鉄工所で製作していたバルコニーを、ユニットバルコニーとして規格化し発売。ビル用建材では、学校向けパーティション、軽量鋼板ドア、店舗用装飾テントなど相次いで商品化し、事業の枠を拡げました。

1974年 防災シャッターの開発

多くの死傷者を出した大阪千日デパートの火災を契機に、防火性、防煙性に優れたシャッターを開発し、社会の要請に応えました。



1982年～ アフターサービス体制を強化

24時間365日サービス体制を確立し、次いで1986年には業界で初めてサービスカーに「カー無線」を導入しました。



1991年 業界初、耐火試験炉を完成

桶川テクニカルセンターに自社内試験炉を導入。耐火性の高い商品開発の迅速化につながりました。



1995年～

高付加価値へのあくなき挑戦

1992年3月、創業から37年で売上高1,000億円を達成。文化シャッターはさらなる高みをめざし、「技術力」を駆使した特殊物件への挑戦をはじめ、省エネに優れた環境配慮商品の提供など、ユーザー視点に基づいた高付加価値商品やサービスへの追求に拍車がかかりました。

1996年 東京国際フォーラム「残響可変システム」

本格的なクラシックコンサートから国際的な会議まで自在に音の反響をコントロールすることのできる残響可変システム。パネルシャッターの技術により実現した壁全体に設置されたデザインは画期的なものでした。



1999年 省エネ効果の高い環境配慮商品の開発

高速シートシャッター「エア・キーパー大間迅」が誕生。開閉速度は通常シャッターの10倍以上で気密性、耐風性が高く、省エネに優れた商品として注目を集めました。



セルフリペアリング方式
衝撃により万が一シートがガイドレールから外れても、巻き上げることによって自動で復帰し、より高い安全性を確保しています。



「エア・キーパー大間迅」は、外気の流入を最小限に抑えることで、熱損失が小さく、CO₂の削減効果があると認められ、エコマーク認定を取得しています。

2000年 試験・検証施設「試験センター」を開設

桶川テクニカルセンターの機能を拡充し、総合的な試験・検証施設「試験センター」を開設。自社で実施できる試験設備を充実させ、検証データを蓄積することで「技術力」の向上と商品化へのスピードアップにつながりました。

2004年～

2004

BX

快適環境のソリューショングループへ

2004年、文化シャッターのBと未知の可能性を掛け合わせるXにグループの未来が託され、新たなステージへの挑戦が始まりました。

2006年に掲げられた長期ビジョン「快適環境のソリューショングループ」は健やかな地球環境のもとで人々が快適に暮らすために生活全般をソリューションするBXグループのあるべき姿です。持続可能な社会への貢献がグループの成長・発展につながる課題解決型の経営への探求が始まりました。

2007年 循環型社会に貢献する環境配慮商品の開発

持続可能な資源活用をめざし、廃木材と廃プラスチックを原料とした100%リサイクル建材「テクモク」を発売。廃棄物の削減や資源保護、環境保全への配慮で循環型社会の実現に貢献しています。



2010年 太陽光発電システム 事業に参入

設計・施工から設置、メンテナンスまで一貫して請け負うことでお客様に安心して導入いただける体制を整えています。



2012年 浸水から社会を守る止水事業に参入

業界に先駆けて止水事業を立ち上げ、オリジナルの止水商品を開発、発売。自治体や企業などのBCP対策として採用いただき、「超」モノづくり部品大賞（生活関連部品賞）などの評価をいただいています。



➔ 参照 P25-26 特集「BXグループ防災ソリューション」

2017年 ライフイン環境防災研究所に名称変更

2008年、より一層の開発スピード向上を図るため、「試験センター」に新たなコンセプトを加えた「ライフインセンター」を開東の生産拠点である小山工場隣接地に開設。2017年には事業テーマ「エコと防災」にちなみ、「ライフイン環境防災研究所」として生まれ変わりました。

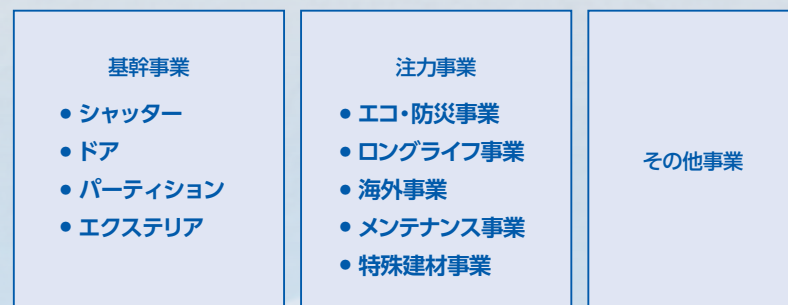
➔ 参照 P11-12 BXグループの強み「技術力」

BXグループの価値創造プロセス

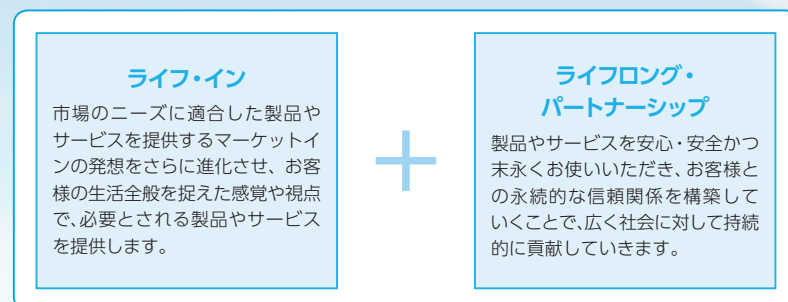
創業以来培ってきた「技術力」と「施工力」を強みに、グループ間連携によるシナジー効果を発揮することで、新たな価値を時代に先駆け提供する価値創造プロセスの実現に取り組んでいます。独自の成長モデルである「BX-CSV」(社会と共有する価値の創造)による持続可能な社会への貢献により、さらなる企業価値の向上をめざします。

Our Business

事業ポートフォリオ



提供ソリューション



BXグループの強み
グループシナジー

技術力

施工力

経営基盤(価値創造の源泉)
創業の精神「誠実をもって社会に奉仕する」
企業文化「創造・挑戦・革新」

Output

価値創造分野



Outcome



持続可能な社会

VISION の実現

進化する快適環境
ソリューション
グループ

BXグループの
持続的成長

共有価値の創造
(BX-CSV)

ESG経営の実践
SDGsへの貢献

BXグループの強み 「技術力」



成長と共に
マテリアリティ

● 技術力・施工力の強化



開発から資材調達、販売、製造、物流、施工、メンテナンスまで、一連のバリューチェーンを支えるBXグループの「技術力」。創業当初から続く課題解決への挑戦によって磨かれてきた「技術力」は、市場から「技術の文化」と評価をいただけてきました。

BXグループならではの価値あるソリューションを、いち早く社会に提供するために、さらなる「技術力」の進化を後押しするさまざまな取り組みをご紹介します。



BXグループの技術力を底上げる ライフイン環境防災研究所

開発支援
基礎技術研究
品質向上
生産支援

各種性能試験や基礎技術の研究および、商品の評価、安全性の検証や評価基準の設定までを実施する総合的な試験・研究施設として、BXグループの「技術力」を支えています。

国際規格ISO/IEC 17025を取得した試験施設として、技術能力を認定されています。

充実した試験設備と試験方法や技術能力等が国際基準に適合することから、グループ内の品質確保や向上だけでなく、外部からの委託試験を受け入れ、第三者機関として客観的な評価をしています。



試験研究所機能 認定範囲

防火・耐火 試験	気密・水密 試験	遮音性・断熱性 試験
-------------	-------------	---------------

主な試験装置一覧

地球環境 テーマ	- 環境・断熱試験装置 - 動風圧試験機 - 恒温恒湿室	- 照射試験機 - 屋外暴露試験場
防災 テーマ	- 耐震試験装置 - 止水試験場	- 構造試験場 - 耐火試験炉
快適環境 テーマ	- 音響試験室 - 電磁シールド室 - 防音室	



環境・断熱試験装置



動風圧試験機



止水試験場



耐震試験装置

BXグループの技術が叶える商品力 快適環境ソリューションの具現化

商品開発部
マーケティング・プロモーション活動
商品力の強化
新商品・新事業の企画開発

課題解決型の技術開発で新市場を切り開き、ライフスタイルの変化に応じた「新しい住まい方」の実現に日々チャレンジしています。長期的な視点で、環境配慮商品の開発に産官学連携の共同研究やプロジェクトで取り組んでいます。

新しい価値へのチャレンジ 商品力を強化する取り組み

文化シャッターの商品開発部は試験・評価機関であるライフイン環境防災研究所の施設内に拠点を置き、また製造部門の小山工場に隣接していることで、タイムラグなくアイデアを試作できるなど、開発、製造、技術の連携により商品化のレベル向上とスピードアップにつながっています。「他と異なる目の付けどころ」であがってきた現場からの声を具現化し、課題解決に貢献する新しい価値創造をめざしています。

基礎技術研究 文化シャッターのコア技術

ライフイン環境防災研究所では、自社内での試験・評価を可能にする「桶川テクニカルセンター」を開設して以来、その機能を拡充させながら商品開発の根拠となるさまざまな検証データを蓄積してきました。文化シャッターのコア技術力ともいべき基礎研究の成果を活用し、安心・安全を追求した社会の役に立つソリューションを、スピーディーに社会に提供する開発支援を行っています。

当研究所は2009年に国際規格ISO/IEC 17025を取得、建材メーカーとしては例のない大型試験設備も多数導入しており、さらなる試験分野の拡充を図っています。2017年には新たに「耐震試験装置」や「止水試験場」を導入し、大規模地震や自然災害発生時において、人々の命と都市機能を守るソリューション開発をサポートしています。環境と防災という喫緊の課題解決に向けて、今後は多様な組織との価値共創をめざし、さらなる基礎技術の研鑽に努めていきます。

耐震試験装置のデータ活用事例

● 学校用間仕切「プレウォール」

近年発生した大地震の際、「建築非構造物」の倒壊による人的・物的被害が数多く発生したことを受け、学校用間仕切の地震に対する安全性を向上させるため、独自の「はずれ止め構造」を新たに開発しました。日本で観測された震度7までの地震波データをもとに地震動試験を実施し、戸・障子の脱輪による倒れ、脱落がなく安全であることを確認しました。



木製仕様SAW105A

「面白い」にチャレンジする技術大会

年に一度開催される技術大会は開発者たちにとって日頃の基礎研究や「面白い」「世の中になくもの」にチャレンジできる大きな機会です。商品開発部のほか、ドア・パーティション事業本部の技術者、ライフイン環境防災研究所の所員が数人ずつチームを作り、共同でのづくりに挑戦します。継承するチャレンジ精神が発揮される貴重な場となっており、経営幹部ほか、営業を代表するエリアの支店長や本社部長などが出席し、それぞれのチームの作品を吟味、活発な意見交換が行われます。自由な発想による技術大会は、BXグループの技術イノベーションの発信源となっています。



品質の確保・向上 安心・安全の追求

BXグループの提供する商品の安心・安全はライフイン環境防災研究所が設定する評価基準により決定されます。商品化されるまでにはさまざまな工程がありますが、法制度はもとより、より厳しい基準で設定された試験と品質基準をクリアしたもののみが商品となります。自社内での試験評価には第三者としての厳正な視点が必要ですが、「造りやすさ」という生産者視点や開発者視点、そしてお客様の使いやすさを追求する使用者の視点も同じように重要です。このようにBXグループでは自社内試験評価の特性を活かした独自の評価マネジメントシステムを構築しています。

体感ゾーン

創業当初からの商品開発の歴史や、象徴的なプロジェクト事例等の展示をはじめ、さまざまな商品を実際に「見て・触って・体感できる」文化シャッターの技術が結集した施設です。2019年度は718名の見学者が訪れました。

➔ 参照 P29 成長と共に「ステークホルダーとのコミュニケーション」



プレゼンテーションスペース

ユニバーサル&バリアフリースペース

BXグループの強み 「施工力」



成長と共に
マテリアリティ

● 技術力・施工力の強化



一連のバリューチェーンを支える「技術力」を活かし、建物空間に最善の価値を生み出し続けているのが、創業以来培い、継承してきたBXグループの「施工力」です。

行動の指針となる「文化シャッター 設計施工 理念と行動」、それを実践する工事員を基盤として、施工能力、施工品質、施工効率の3つを向上させることで、ステークホルダーに提供する価値の最大化をめざしています。

施工力の強化を支える 基盤づくり

日本の建設業就業者の高齢化が進んでいます。中長期的な若手人材の確保と定着率向上はBXグループだけでなく、建設業界全体の課題となっています。

設計施工の行動指針

BXグループの「施工力」強化には、製品施工を担う工事員の確保、安全管理、コンプライアンスの強化などが重要になります。BXグループでは、より強固な基盤を構築するため、設計施工における理念や行動指針に従業員の共通価値とすることを目的とした「文化シャッター 設計施工 理念と行動」を2019年に制定しました。

設計施工 理念と行動

基本理念

知恵と技術を結集し、空間に最善の価値を提供し続ける
品質・納期・コストを司り、お客様から感謝して頂く喜びを分かち合う
ともに働く仲間と研鑽を重ね、未来への可能性に挑み続ける

行動指針

- 知らないことを知ることは楽しいこと
- お互いに成長することは嬉しいこと
- ものごとをやり遂げることは面白いこと
- 培った技術を伝えることは誇らしいこと、受け継ぐことは尊いこと
- 今を変えることは明日をつくりだすこと

安全宣言

- 私たちは、設計施工に携わる全ての人々が自宅を出て無事に帰宅できるように安全第一で行動します
- 私たちは、手掛ける商品がお客様に安心・安全を提供する使命を持つことを胸に刻み行動します

工事員の確保と定着率の向上 事例 ● 工事内製化

文化シャッターでは、製品の取り付け等の施工作業を主に協力会社が行っており、担い手となる工事員の高齢化や人材不足が課題となっています。そこで2019年度、社内に工事課を新設し、工事員を社員（以下、BX施工社員）として採用する、工事内製化を開始しました。BX施工社員は施工技術研修や熟練工事員の指導によるOJT研修などで経験を積み、6カ月～1年後の自立をめざします。

工事内製化の推進により、安定した待遇の雇用創出を実現すると共に、文化シャッターの「施工力」の基盤である工事員の確保、定着率の向上を見込むことができます。将来的にはBX施工社員が中心となり、標準施工や独自の施工技術を継承していくことで、グループ全体の施工品質の維持、向上に努め、「より高いレベルの安心・安全」の確保につながることを期待しています。2019年度はBX施工社員2名、外国人技能実習生4名を採用、2025年度までに100名体制の構築を目標に制度整備を進めています。

VOICE

日本の高度な技術を身につけるため、技能実習生として文化シャッターに入社しました。ベトナムとの文化や言語の違いに戸惑いながらも、日々の課題に全力で取り組んでいます。日本で働き始めて驚いたのは、作業スケジュールや納期の管理を徹底していることです。施工現場での安全第一はもちろんのこと、納期までに品質の高い製品を確実に取り付けることができるよう、先輩から専門的な技術や知識を吸収し、一日も早く一人前の工事員として自立したいと思っています。日本で培った経験を活かして、ベトナムの日系企業で活躍することをめざしています。将来はベトナムの技術発展や日本との関係づくりに貢献していきたいです。



文化シャッター 設計施工企画部 工事課

LÊ TRỌNG THẬP
(レー・チョン・タップ)

BXグループの施工力を 強化させるための取り組み

「施工力」を強化するため、施工教育体制の拡充、独自の資格制度の構築など、工事員が主体性を発揮できる取り組みや制度整備を進めています。



新人工事員研修



シャッター技能研修

工事員・営業担当者の施工能力の向上 事例 ● 工事員の教育体制の拡充

文化シャッターでは、「知恵と技術を結集し、空間に最善の価値を提供し続ける」を設計施工における一つの理念とし、工事員の施工能力向上や多能工化をめざした独自の教育プログラムを構築しています。教育機会を増やすため、結城研修所（茨城県）と姫路研修所（兵庫県）の東西2拠点体制を整備し、新人工事員研修や特別教育（職長教育、低圧電路、アーク溶接等）など、多様なプログラムの研修を年間30回以上実施しています。またコンプライアンス意識向上や施工現場での基礎ルールの理解・浸透のため、営業担当者を対象とした勉強会やeラーニングを実施し、「施工能力」の底上げを図っています。

今後は工事内製化により増加するBX施工社員の教育を強化し、“施工技術の継承者”の育成を進めていきます。

主な研修一覧

新人工事員研修
職長・安全衛生責任者教育
有機溶剤業務従事者に対する労働衛生教育
高所作業車特別教育（作業床の高さ10m未満）
フルハーネス型墜落制止器具特別教育
その他各種特別教育
軽中量シャッター新人工事技能研修
溶接技能認定研修
各種製品別研修
設計研修
2019年度の研修参加人数 のべ 2,156名

施工品質の確保 事例 ● 独自の施工資格制度の構築と運営

文化シャッターでは、独自の「認定工事製品工事資格制度」を構築し、施工精度が特に品質に直結する製品を、専門的な研修を受講した工事員（認定工事士）のみが施工できるようにすることで、安定的な施工品質を確保しています。中でも大型シャッター、重量シャッター等の施工に必要な「溶接技能認定」では、実技試験の実施、試験設備での施工品質チェックなど、より高い施工品質を担保するために認定基準を高く設定しています。

全工事員の認定工事資格の取得率は34.8%（2020年4月時点）。今後も教育体制の強化による資格取得率向上を図ると共に、より安定的でお客様満足度の高い施工品質を追求してまいります。

施工効率の向上 事例 ● 施工マニュアル環境の整備

施工技術・手順を平準化し、現場での施工効率を向上させるためには、研修等による施工教育だけでなく、施工マニュアル（取付説明書）の活用が必要です。しかし、施工時には製品の取り付けに応じて複数のマニュアルが必要になる場合が多く、紙印刷が基本の従来のシステムでは「量が多く現場に持参できない」「すぐに別のマニュアルを閲覧できない」といった課題がありました。

そこで文化シャッターでは、タブレット端末やスマートフォンで時間・場所を問わず閲覧が可能で、参照が必要なマニュアルにすぐに遷移できる等の機能を備えた「新施工マニュアル閲覧システム」の運用を開始しました。これにより、施工効率の向上が期待できると同時に、製品改良による施工方法の変更を迅速に反映できるといったメリットも生まれます。今後は工事員が施工手順をより正確に把握できるよう、マニュアルに動画や音声を付加し、さらなる施工効率向上をめざしていきます。

トップインタビュー

ESG への取り組みを強化し、 人と地球の持続的な快適環境の実現に貢献します

文化シャッター株式会社 代表取締役社長

潮崎 敏彦



文化シャッターが創業65周年という大きな節目を迎えることができましたのも、お客様をはじめ、お取引先様、株主様、従業員を含むステークホルダーの皆様からの支えがあってこそ、心から感謝申し上げます。

今後もBXグループ一丸となり、社会課題の解決と企業の成長を両立させ、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

持続可能な社会の実現に向けてBXグループがめざすものは

今、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が世界中で猛威を振るい、急速に拡大するパンデミックにより社会全体に大きな影響を及ぼしています。未知のウイルスと闘いながらも、「コロナとの共存」を模索する必要があり、今後は大きく世界が変わるだろうと予測されます。新しい生活様式へと切り替わる中で、生活者の価値観の変化に応える、いわば「これからの快適環境」の新たな価値創出に挑戦することがBXグループをさらに成長させるのだと考えています。

私は常々、あらゆる課題をソリューションの機会と捉えよ、難題を解決する度に企業は成長するのだと従業員に向けて話していますが、このような不確実な現代においては、より一層の柔軟性と適応力が求められ、これまでの成果や常識にとらわれない発想と機転が必要です。

特に新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、社会は大きな不安を募らせています。

BXグループを取り巻く建設業界においても、進行中の工事の中断および建設計画の中止や延期が検討され、今後受注や売上の減少など業績への影響が考えられます。その一方で、人々が安心・安全に、そして快適に過ごすことのできる生活者の暮らし全般をソリューションするBXグループの果たすべき役割が、大きく広がっているのもまた、実感しています。

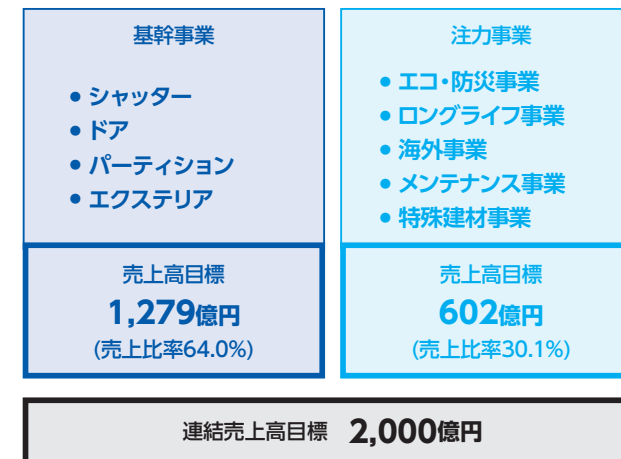
いかなる時代においても、BXグループは「社会になくてはならない会社」になることをめざします。持続可能な快適環境の追求に弛まず努力し続け、価値創造分野の拡充を図ることがグループの成長につながるのだと確信しています。

中期経営計画(2016-2020)について

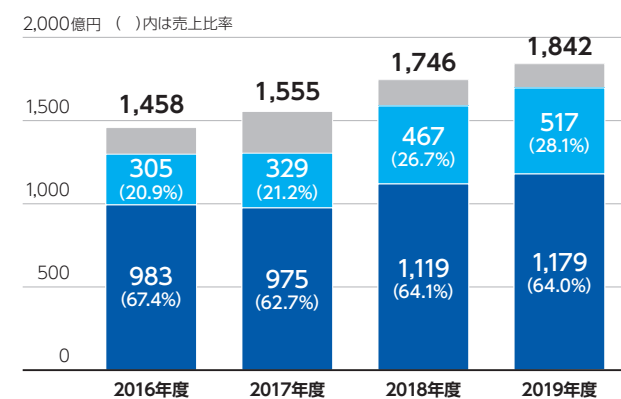
2016年にスタートした中期経営計画では、BXグループがめざすべき姿を「ポスト2020VISION」と位置づけ、事業を通じた社会貢献と、企業としての成長・発展とを両立させることで「快適環境ソリューショングループ」としてのさらなる進化をめざすというビジョンの共有を図りました。

また主要施策としては、この5ヵ年を市場の変化を見据えた事業基盤の強化期間とし、BXグループを支えてきたシャッター・ドア事業を基幹事業、今後の発展を担うエコ・防災事業、ロングライフ事業、メンテナンス事業、海外事業等を注力事業として、事業ポートフォリオの最適化を図りました。

中期経営計画（2016-2020）

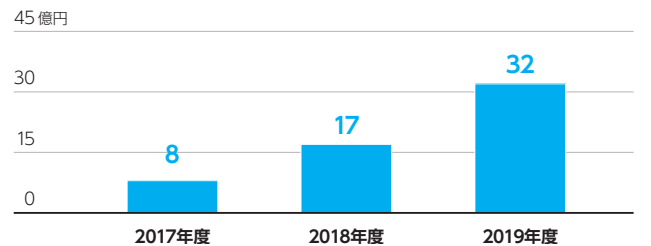


売上高推移



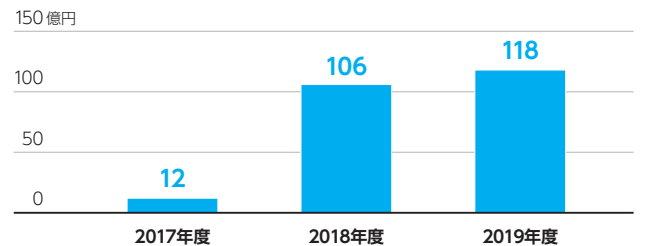
将来を見据えた注力事業において、リーディングカンパニーとなるべくさまざまな価値提供に取り組んできましたが、中でもエコ・防災事業は、国内において早急に解決すべき社会課題である「地球環境保全」と「防災の基盤づくり」に貢献する事業として大きく成長し、2019年度の売上高は過去最高を記録しました。エネルギーの省力化や循環資源の活用、生態系保全等をめざしたエコ事業と、地球温暖化が原因とされる大規模自然災害から都市機能を守る防災事業は、「国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」が評価分析を進める気候変動への「緩和と適応」に直接アプローチする事業としても、社会からの期待に応える事業であると考えています。今後はさらに課題解決分野を広げ、この事業を大きく育てていく考えです。

エコ・防災事業 売上高推移



海外事業においては、ベトナムを中心としたASEANでの事業展開に加え、2018年に住宅用ガレージドアの製造・販売を行うBX BUNKA AUSTRALIA PTY LTD（オーストラリア連邦クイーンズランド州）を設立し、オセアニアに進出しました。2019年にはオーストラリア国内で産業・商業施設向けの開口部製品を扱うARCO(QLD)PTY LTDを傘下に迎え入れ、基盤の強化を図りました。競争が激しく急速に変化するグローバルマーケットにおける事業展開には、まだ解決すべき課題が残っているのも事実です。BXグループが持続的に成長するためにも、長期的な視野でグループの企業文化をグローバルに育てていくことが必要だと考えています。

海外事業 売上高推移



2020年度は中期経営計画の最終年度です。「進化する快適環境ソリューショングループ」の実現に向け、最後までグループ一丸となって、業績の最大化をめざしてまいります。

BXグループならではの成長戦略について

2020年度の経営方針では、BXグループの強みである「技術力」と「施工力」のさらなる「深化」をテーマとしています。

BXグループは創業当初より、時代の要請に応えるべく挑戦と革新を繰り返してきました。市場から評価をいただく「技術の文化」は、先人たちのチャレンジ精神によって磨かれてきたものであり、開発からアフターメンテナンスにわたる全てのバリューチェーンにおいて積み重ねてきた経験と実績によるものです。

とりわけ開発技術の分野においては、創業間もなくして軽量シャッターの電動化を実現、業界で初となる住宅用窓シャッターを発売、さらには当時としては画期的だったアフターサービス制度を導入するなど、業界に先駆けた新たな価値を創出してきた歴史があります。先人たちのスピリットは現在活躍する開発者たちにも引き継がれ、誇りを持って日々研究・開発に励んでいます。

また、BXグループの商品をお客様に安心・安全にご使用いただくために、施工技術の強化・向上は重要な責務であり、BXグループの「施工力」は、全国に展開するネットワークと高い技術力を誇ります。さらなる「施工力」の強化を図るには、工事員一人ひとりが明確なビジョンを共有し、施工理念を具現化することに責任を持つことが大切です。工事員が現場でその技術と能力を充分に発揮できるよう、教育体制の構築はもちろんのこと、マニュアルのデータ化や施工効率の向上による働き方改革など、施工環境の整備に取り組んでいます。高い「技

術力」で生み出されたBXグループの商品は、建物に取り付けてはじめてその機能を発揮します。「技術力」と「施工力」は常に両輪で互いを高め合う、BXグループのコア・コンピタンスと言えるでしょう。

社会と共有する価値の創造をめざしたBXグループの独自の成長モデル「BX-CSV」は、この2つの強み「技術力」と「施工力」に支えられています。

社会のお役に立ち、さらに収益力を強化できるような「BX-CSV」を実現させるには、今までの成果におごることなく、常識を打破する変革におそれずにチャレンジしていくことだと思います。

そういう意味で、昨年「技術のBUNKA」を再創造することを宣言しました。新しい価値の創出には、潜在的な価値にいかにかが付き、課題を掘り起こす発見力が必要になります。私たちのものづくりは、お客様の生活全般を「見る」ところから始まりますが、変化の激しい時代において、ライフスタイルはますます多様化し、社会全般に大きな価値観の変化が起こるでしょう。バリューチェーン全体で「見る」力を養い、お客様の生活を総合的にコンサルティングするメーカーの域を超えた発想で、これまで培ってきた「技術力」に変革を起こすことが技術イノベーションにつながるのだと思います。

今後も未来を見据え、社会課題に挑む技術革新とイノベーション的発想で、BXグループの「技術力」にまた新たな歴史が加わることを期待しています。

ESG、SDGsへの取り組みについて

国際社会全体で取り組むSDGsは、17の包括的な目標を掲げていますが、貧困や飢餓といった根本的な問題から、地球環境問題、働きがいや経済成長まで多岐にわたり、人類がこれまで解決できずにいた根深い課題も含まれます。2030年までに具体的な解決への道筋を切り拓くには、企業のイノベーションにも大きな期待が寄せられています。

私の尊敬する経営者の一人が、「会社という文字を入れ替えると社会になる。社会あつての会社なんだ」と、ことある毎に口にしていました。社会で起こっている問題に取り組むのは企業の責務だと教えられてきましたし、BXグループも、課題解決の積み重ねで成長してきた会社です。

SDGsの各目標を見渡してみると、BXグループの果たす役割は大きく、解決に向けて取り組むことで、成長の機会となる

ような目標が数多くあると考えています。

BXグループでは「成長と共に」「社会と共に」「地球と共に」「働く仲間と共に」の4憲章からなるCSR憲章に基づき活動を推進していますが、この独自のガイドラインであるCSR憲章の指針はSDGsがめざす「誰一人取り残さない」社会とも理念を共にしており、より広い視野で課題を捉え、活動のステージを上げていくことで、SDGsの目標達成に貢献できるものと確信しています。

昨年、CSR憲章とSDGsとの関わりを整理し、BXグループが特に重視すべき重点課題を再設定しました。これにより、我々が社会において果たすべき役割がより明確なものになりました。

CSR4憲章とSDGsの関わり（CSR4憲章マテリアリティ）



特に早急に解決すべき喫緊の課題である気候リスクへの対応は、BXグループにとっても最重要課題と捉えています。

代表的な取り組み事例に、防災ソリューションが挙げられます。地球温暖化が原因と言われる集中豪雨や大型台風などの大規模な自然災害の発生が増大しており、「国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の評価報告によると、今後さらに発生頻度が高まると予測されています。BXグループでは大規模自然災害がもたらす被害を最小化するソリューションに注力することで、気候変動によるリスクに適應する、災害に強い街づくりに取り組んでいます。

2012年に参入した防災ソリューションの一つである止水事業は、水害による浸水被害が深刻化している事態を受け、主に大型施設のBCP対策として提案してきた止水関連商品に加え、「誰でも・簡単に・素早く」をコンセプトとした簡易型止水商品を提供する事業です。大がかりな工事が不要で、かつ一人でも持ち運びができるなど、簡易型止水という新しい概念で注目を集めました。さまざまなご要望にお応えする中で、多様な場所や用途に対応するラインナップも徐々に増え、止

水マスターシリーズとして、企業のBCP支援から店舗やマンションの浸水対策まで、事前の備えとしてお役立ていただいています。

「快適環境」を形にするためにも、BXグループにとって、ESGを重視した経営やSDGsへの取り組みは必要不可欠なのです。

ESG経営を推進するうえで原動力となるのは、BXグループのあるべき姿や果たすべき役割について、従業員一人ひとりが理解を深め、SDGsを意識しながら自分たちの仕事を一歩でも半歩でも改善していくという経営への参画意識です。全従業員の参画によって、社会課題の解決に良好な影響を与えるというサイクルをしっかりと創り上げていきたいと思っています。一人ひとりが起こす小さなイノベーションが「BX-CSV」の種となり、やがて大きな成長・発展へとつながります。社是に掲げる「誠実 努力 奉仕」の実践によって創り上げられるBXブランドの確立は、グループをより強固な企業体へと導いてくれることでしょう。

BXグループに求められる「人財像」について

BXグループの成長を支える人材に必要なとされるのは、高い「人間力」だと思っています。

目の前の仕事だけでなく、広い視野で積極的に課題解決に取り組む企業人としての経験と、社会活動に参画することで対人関係からさまざまなことを学び取る経験の、両面があつて「人間力」に磨きがかかります。

私は社長に就任以来、できるだけ多くの従業員に話を聞く機会を持つよう心がけてきました。人事部長時代の経験から、多くの従業員の顔と名前が一致するのが私の強みだと

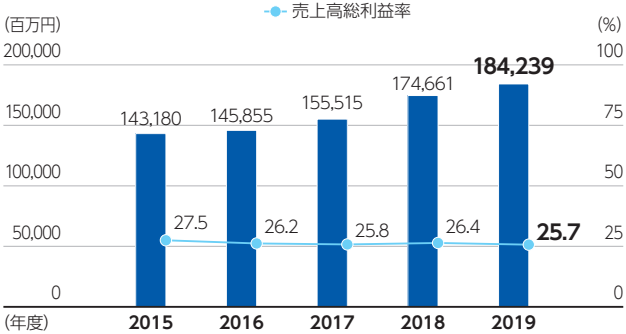
と思っています。「企業は人なり」とよく言われますが、BXグループは従業員が財産です。

私の仕事は従業員が生きがい、働きがいを持って働くことのできる風土を作ることだと思っています。人生100年時代に、18歳から70歳まで、従業員がそれぞれのステージで能力を発揮し、輝ける会社になりたいと思っています。

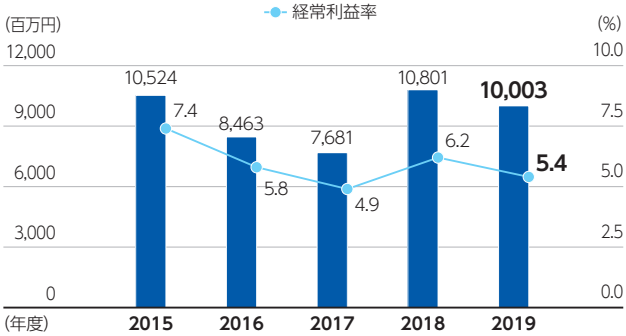
社会のお役に立っている企業の一員として、従業員が誇りと幸福感を持ちながら働くことが、エクセレントカンパニーへの近道だと考えています。

財務データ（連結）

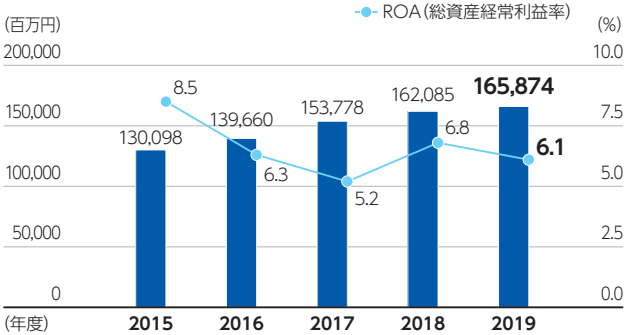
売上高／売上総利益率



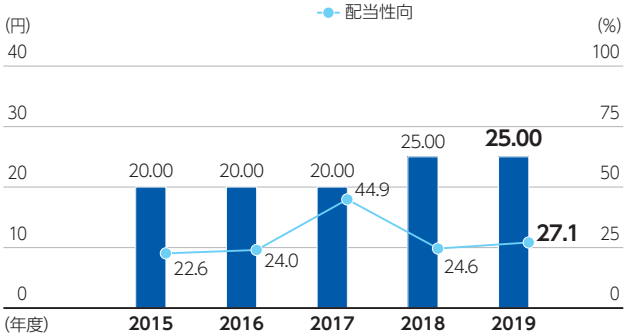
経常利益／経常利益率



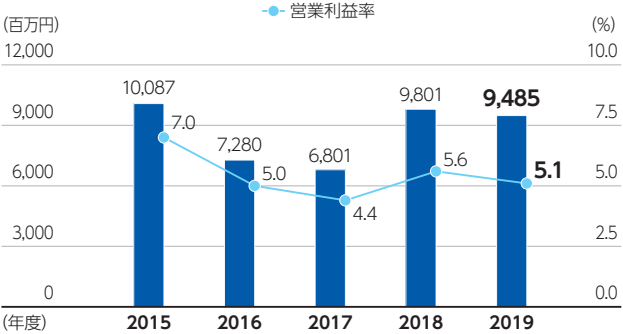
総資産額／ROA(総資産経常利益率)



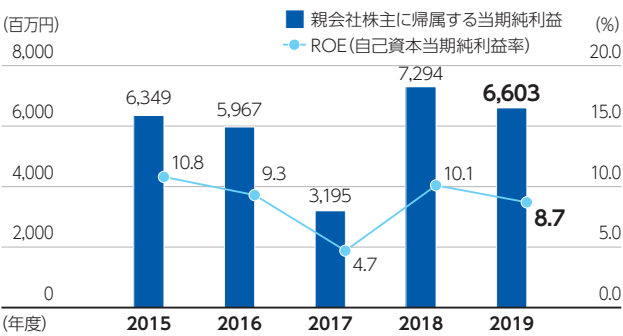
1株当たり配当額／配当性向



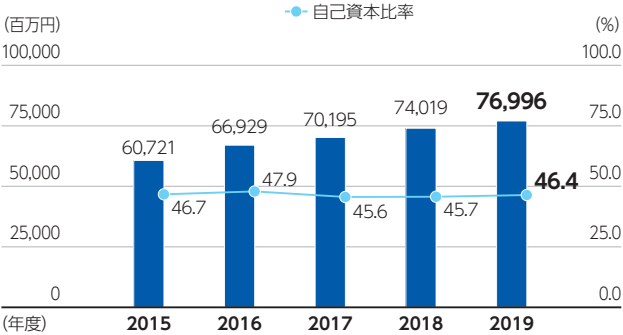
営業利益／営業利益率



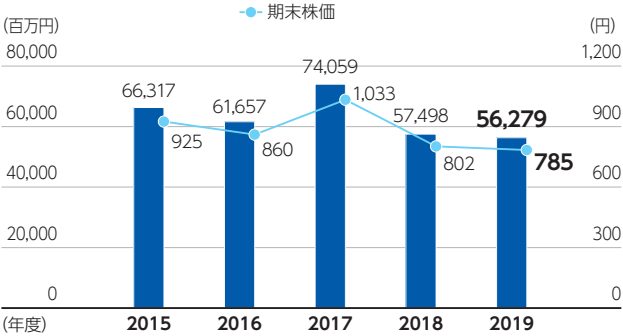
親会社株主に帰属する当期純利益／ROE(自己資本当期純利益率)



自己資本／自己資本比率



時価総額／期末株価



貸借対照表

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,308	25,727
受取手形及び売掛金	46,356	46,640
商品及び製品	13,652	14,350
仕掛品	1,083	1,000
原材料及び貯蔵品	4,161	4,335
その他	3,835	4,202
貸倒引当金	△ 98	△ 111
流動資産合計	93,300	96,144
固定資産		
有形固定資産	30,733	32,944
無形固定資産	10,335	9,953
投資その他の資産	27,715	26,830
固定資産合計	68,784	69,729
資産合計	162,085	165,874
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	33,363	33,703
短期借入金	3,556	2,284
リース債務	449	667
未払法人税等	2,660	1,632
未払消費税等	1,015	988
未払費用	5,826	6,062
賞与引当金	3,336	3,416
役員賞与引当金	123	127
工事損失引当金	116	118
設備関係支払手形	99	286
その他	4,409	5,524
流動負債合計	54,959	54,811
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	10,000	10,000
長期借入金	1,268	266
リース債務	733	2,771
繰延税金負債	1,022	813
役員退職慰労引当金	369	357
退職給付に係る負債	18,881	19,023
受入保証金	573	581
長期前受収益	9	9
資産除去債務	52	53
その他	35	30
固定負債合計	32,946	33,905
負債合計	87,905	88,717
純資産の部		
株主資本		
その他の包括利益累計額	3,720	2,233
非支配株主持分	160	160
純資産合計	74,179	77,157
負債・純資産合計	162,085	165,874

損益計算書

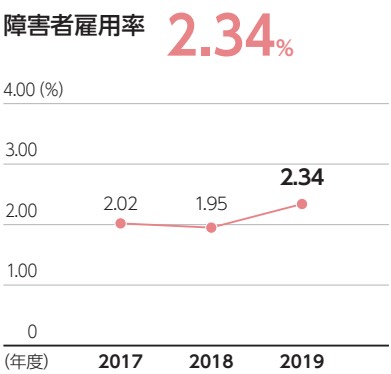
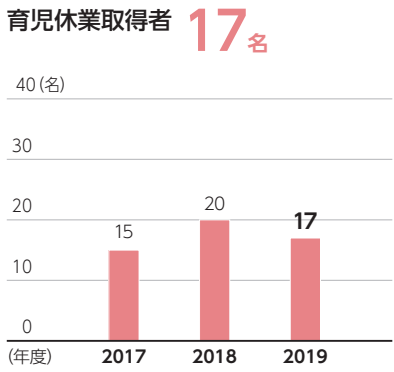
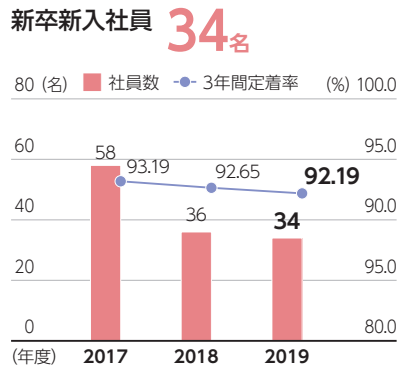
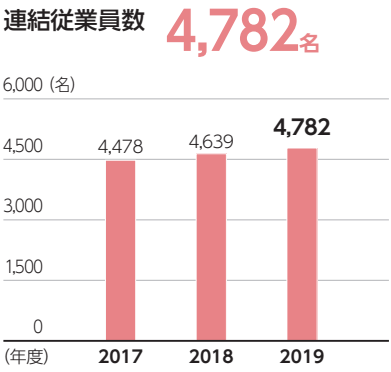
	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
売上高	174,661	184,239
売上原価	128,574	136,938
売上総利益	46,087	47,301
販売費及び一般管理費	36,285	37,815
営業利益	9,801	9,485
営業外収益	1,353	1,357
営業外費用	353	840
経常利益	10,801	10,003
特別利益	100	147
特別損失	19	42
税金等調整前当期純利益	10,882	10,108
法人税、住民税及び事業税	3,747	3,599
法人税等調整額	△ 172	△ 111
法人税等合計	3,575	3,488
当期純利益	7,307	6,620
非支配株主に帰属する当期純利益	13	16
親会社株主に帰属する当期純利益	7,294	6,603

キャッシュフロー

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業活動によるキャッシュフロー	11,473	10,263
投資活動によるキャッシュフロー	△ 4,450	△ 3,429
財務活動によるキャッシュフロー	△ 2,756	△ 5,090
現金及び現金同等物に係る 換算差額	△ 24	△ 31
現金及び現金同等物の増減額	4,242	1,711
現金及び現金同等物の期首残高	18,377	22,620
非連結子会社との合併に伴う 現金及び現金同等物の増加額	-	61
現金及び現金同等物の期末残高	22,620	24,393

非財務データ (S 社会)

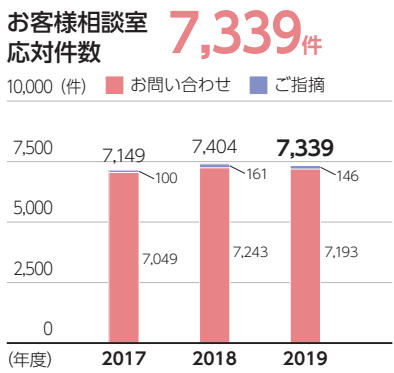
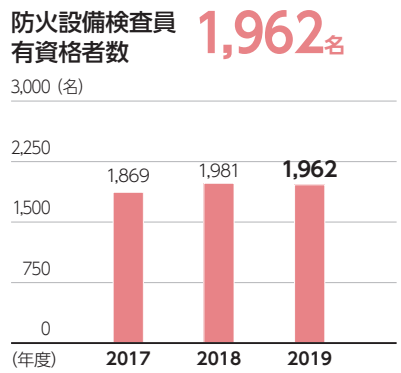
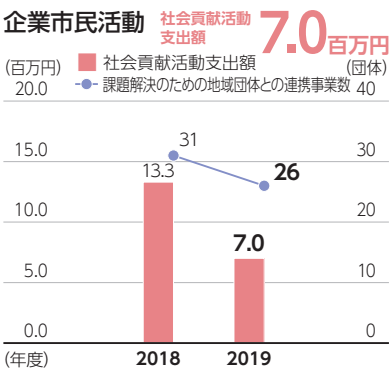
※ 従業員数以外のデータは「単体」で算出



		2017年度	2018年度	2019年度
離職率 (%)		1.37	1.96	1.85
平均年齢 (歳)	全体	43.3	43.4	43.4
	男性	43.6	43.8	43.6
	女性	40.4	40.6	40.6
平均勤続年数 (年)	全体	17.1	17.6	17.0
	男性	17.2	17.8	17.1
	女性	15.9	16.3	16.3
平均年間給与 (円) ※1	全体	-	6,430,458	6,939,087
	男性	-	6,618,065	7,135,989
	女性	-	4,775,326	5,161,867
女性管理職 (名)		1	3	3
常用雇用者数 (名)		-	670	684
外国人従業員数 (名)		-	8	7
介護休業取得者 (名)		1	0	0
短時間勤務利用者 (名)		16	22	21
従業員一人あたりの平均残業時間 (時間)		-	25	25
年次有給休暇取得率 (%) ※2		-	50.4	62.1
品質事故発生件数 (件)		0	0	0

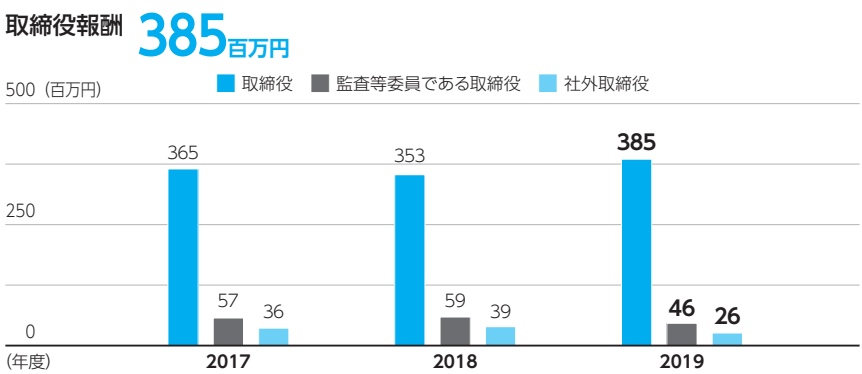
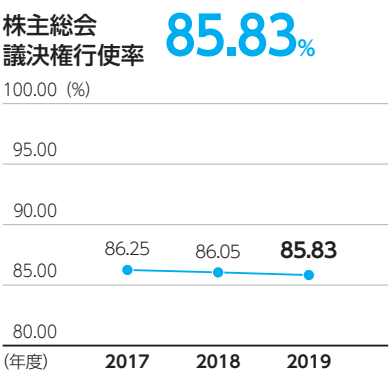
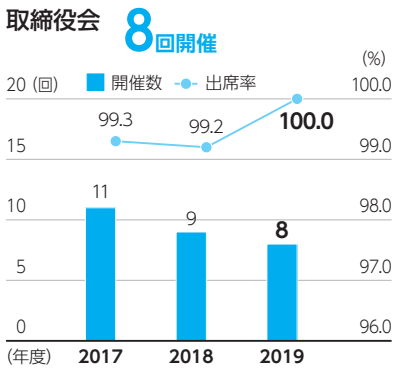
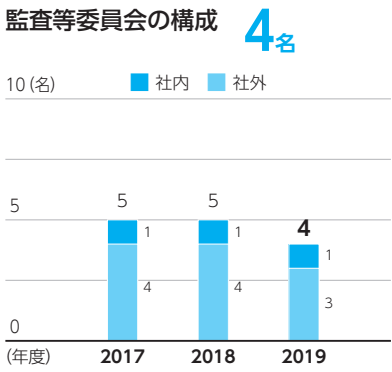
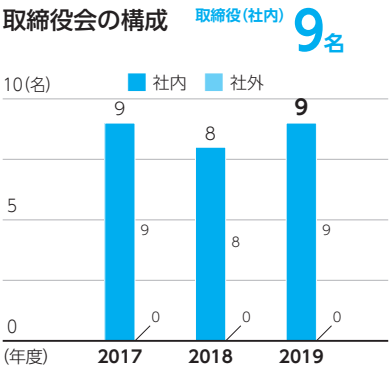
ISO取得状況 (取得事業所数)  ISO認定／登録状況 (詳細) <https://www.bunka-s.co.jp/corporate/outline/iso/>

※1 年間収入平均
※2 計算方法：従業員の取得日数計／付与日数計×100 (%)



非財務データ (G ガバナンス)

※ 文化シヤッター「単体」



		2017年度	2018年度	2019年度
コンプライアンス	内部通報件数 (件)	1	4	14
	コンプライアンス教育e-ラーニング受講率 (%)	100	100	100
投資家向け説明会・ミーティング実施回数	決算説明会 (回)	-	2	2
	個別訪問・取材受け入れ (回)	-	24	30

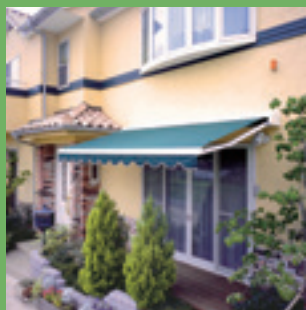
※ 内部通報件数およびコンプライアンス教育e-ラーニング受講率のみ連結で算出

BXグループ 環境ソリューション

地球温暖化が進み、世界にさまざまな影響を与えています。どれも深刻でその被害は年々大きくなりつつあります。気温上昇のみならず、大規模な自然災害や、動植物の生態系、生物多様性の破壊など、気候変動による問題が深刻化する中、世界で地球温暖化の防止に向けた取り組みが推進されています。BXグループでは環境問題にソリューションするさまざまな価値提供により、地球環境の保全に貢献しています。

環境負荷ゼロ 社会の 実現に向けて

- 効率化、省力化
- 再生可能エネルギー



BXテンパル オーニング



ビニールカーテン「エア・セーブ」



断熱オーバースライディングドア

資源循環型 社会の 実現に向けて

- 廃棄物の削減
- リサイクル技術



100%リサイクル建材 木材・プラスチック再生複合材「テクモク」



自然と共生する 社会の 実現に向けて

- 生物多様性
- 水・大気・土壌・動植物の生態系保全



BXカネシン 柱脚金物「ベースセッター」



LC-core構法



ハイライト

BXカネシン

BXカネシンは、創業以来半世紀にわたり、主に木造住宅の建築金物や建築用資材の製造・販売を通じて時代のニーズに応える価値を提供してきました。2010年の木材利用促進法施行により、木造建築の可能性が広がる中、BXカネシンは木造住宅で培った技術を活かし、多目的木造建築(MP)[※]のさらなる進化を追求することで豊かな森林保全に貢献しています。

[※] (非住宅)や〈中・大規模〉と呼称されてきた木造建築が多目的な用途を持つ建築物であることから、BXカネシンでは〈多目的木造建築〉として統一しました。MPIは、「Multi Purpose (多目的)」の頭文字です

日本の森林が抱える問題

日本は国土の3分の2を森林が占める世界でも有数の森林国。そのうち資源として人が植えた「人工林」は4割を占めます。現在、多くの人工林が需要期を迎えており、豊富な資源となっているにもかかわらず、木材の利用は充分に進んでいません。木材の利用は「植える、育てる、伐る、使う」という人工林の循環サイクルの一部であるほか、健全な森林を保つための林業従事者の収入源にもなるのです。CO₂の吸収による温室効果ガスの削減や荒れた土壌が原因となる災害防止のためにも、持続的な森林育成が必要です。



木造建築の用途を拡げてニーズを高める

地球環境保全や日本の森林資源の有効活用の観点から、2000年以降、木材利用を促進するさまざまな法改正が実施されました。さらに2010年には木材利用促進法が施行され、住宅はもとより、公共建築物をはじめ多目的な用途を持つ木造建築物への技術革新が進んでいます。

柱を耐力壁にする 柱脚金物「ベースセッター」

ベースセッターは、構造上制約が多い木造建築でも、わずかなスペースで優れた耐震性能を発揮することができます。安全性を確保しながら、デザインの自由度を格段に高め、広く豊かな空間を実現します。



狭小地に建つ耐震等級3の木造3階建て住宅。ベースセッターを車庫の片側に配置し、広い駐車スペースと玄関へのアプローチを確保

意匠設計者様向けセミナーで 木造建築の自由度をアピール

2019年度は「木造住宅の自由度の拡張と中・大規模木造建築への対応」と題した意匠設計者様向けの特別セミナーを全国主要都市で開催。設計方法や製品紹介のほか、「一般社団法人木質構造の設計情報を共有する会」(通称：木構造テラス)から代表理事をお招きし講演会を実施しました。



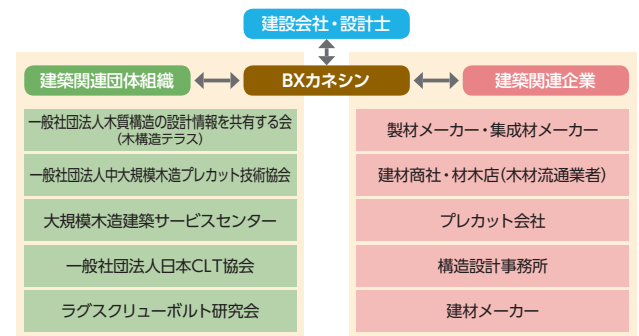
文化シャッターBXホールで実施された特別セミナー。設計者との貴重な情報交換の場となりました

国産木材の利用で健全な森林育成に貢献

木は大気中の二酸化炭素(CO₂)を吸収し、固定化した炭素を長期間蓄え続ける性質があります。木材の利用は、結果的に大気中の二酸化炭素(CO₂)濃度の上昇の抑制につながります。

技術力とネットワークで 多目的木造建築(MP)をサポート

創業以来培ってきた「技術力」と広範なネットワークにより、お客様のニーズにお応えする体制を整えています。



CLTの特性を活かした 新構法「LC-core構法」

木質新建材CLT[※]の用途を広げるため、BXカネシンは住宅会社や大学、設計事務所などとのプロジェクトに参加し、少ない壁で開放性の高いデザインを可能にする「LC-core構法」を開発しました。

[※] ひき板(ラミナ)の繊維方向を直交させ積層接着した木質材料



LC-core構法

BXカネシン株式会社
https://www.kaneshin.co.jp/

設立 1965年7月
資本金 8,000万円

代表者 代表取締役 二村 一久
社員数 86名(2020年3月現在)

事業内容 ● 木造住宅用接合金物の製造販売
● 木造住宅用制震装置の製造販売
● 住宅用換気金物の製造販売
● 建築用資材の製造販売

BXグループ 防災ソリューション

BXグループは創業当初よりさまざまな製品・サービスを通じて、時代の要請に応じ機能の幅を広げながら、人の命を守る役割を担ってきました。創業当初より追求し続けている防犯・防風・防火・防煙機能のほか、大規模地震発生時においても機能を果たすことのできる耐震・対震商品や、昨今被害が深刻化している水害に対応した止水商品など、さまざまな分野において都市を守るソリューションを提供しています。

火災から 命を守る



不燃シート防煙たれ壁
「ケムストップⅡ」



開放軽減機構付き銅製ドア
「エア・バランサー」



耐熱合わせガラス入り特定防火設備
FIX窓「エリファイトプラス」

大規模地震に 備える



マンション玄関引戸
「ヴァリフェイスAe」



大変形追従随時閉鎖型防火戸
「アスコード」



学校用間仕切
「プレウオール」

水害から 都市機能を守る



簡易型止水シート「止めピタ」



止水ドア「アクアード」



浮力起伏式止水板「アクアフロート」

ハイライト

止水ソリューション

“都市”機能を持つ一大交流拠点、空港における防災対策

空港は、貨物や旅客の運搬機能のみならず、乗降客や乗り継ぎ客が快適に過ごせる待合室やロビー、ラウンジ、レストラン、アミューズメント施設などの多様なサービスを提供し、さらには空港までのアクセスを含めた総合交通システムの一環としても、その価値を高めています。また、大規模自然災害時には、航空ネットワークの特性を活かし、救援や物資運搬を担う「災害時の拠点」としても重要な役割を期待されています。大規模自然災害が多発する中、空港における防災対策がより一層強化されています。

国土交通省航空局の取り組み

全国の空港関係者が「統括的災害マネジメント」という考えを共有し、災害発生時には空港全体が一体となって対応していくための計画として、地方管理空港等を含めた空港毎の事業継続計画「A2-

BCP」（“A2”はAirportとAdvancedの意）が策定されました。全国の主要空港において大規模災害に強靱な空港づくりが進んでいます。

航空ネットワークの維持に貢献するBXグループの止水マスターシリーズ

電力確保および電力・燃料供給のための事前の備え

高圧電気室や監視室、防災センターなど空港の基幹的機能維持のみならず、災害発生時には多くの乗降客、空港従事者が滞在する“都市”としての空港運営に電源の確保は極めて重要です。



止水ドア「アクアード」

水深3mまでに対応した、コストパフォーマンスに優れた止水ドア。スチールドアの操作性はそのままに高い止水性能を発揮します。



浮力起伏式止水板「アクアフロート」

水の浮力だけで、自動で起立する起伏式止水板です。夜間や無人の施設でも安心です。

浸水から貨物を守るための備え

国内外の大量の貨物が保管される場所への浸水は、被害による影響も大きく、一度浸水すると復旧には多くの時間と費用を要します。



止水板付き重量シャッター「アクアボトム」

下端にアルミ製止水パネルを取り付けた一体型の重量シャッターです。止水板のようなパネル・支柱を持ち運び手間がかからず、止水状態への操作はシャッターを閉鎖することで完了します。

関西国際空港の防災機能強化に協力

関西国際空港では、大規模な自然災害の発生に備え、高潮・高波による浸水を低減する「越波防止対策」、浸水による被害を最小化するための「浸水被害防止対策」、空港機能の早期復旧のための「排水機能確保対策」の3つをハード面の対策の柱として、総合的・計画的な防災機能強化対策が行われています。BXグループでは関西国際空港の防災機能強化対策に浸水対策ソリューションで協力させていただきました。



空港での浮力起伏式止水板「アクアフロート」設置イメージ

簡易型止水シート「止めピタ」

土のうの10倍の止水性能をもつ簡易型止水シートです。外部から押し寄せる水圧を建物の強度で支えるため、部品点数も少なく、軽量でコンパクトなパッケージで1人で持ち運びできます。また繰り返し使用でき、保管に場所を取りません。

BX止水板「ラクセット」

さまざまな場所に工事不要で設置が可能です。水の圧力をしっかり受け止めるので、設置後も扉を開閉することができ、止水機能を発揮しながら人の出入りを可能にします。